取扱説明書

低床型簡易モジュール車いす
KZ シリーズ

● 目 次 ●

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます。（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）

※ご使用になる前に<u>必ずお読みください</u>。また、ご使用の際には<u>必ず携帯していただき、必要なときにいつでもご覧になれるよう大切に保管してください</u>。

[製品の特徴・使用目的]

この製品は、手動式車いすです。
これに搭乗しての移動と、休息を目的としています。
この車いすは一人乗り用です。

■自走用をご使用の場合

この車いすは、自身でハンドリムを操作して走行する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

■介助用をご使用の場合

この車いすは、介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整、座位の姿勢変換（昇降、旋回等）等の機構がない標準形の介助用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

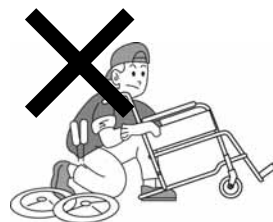
※正しい取扱いに関する必要事項を標示(シンボルマーク)で表しています。

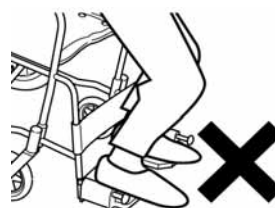
表示	説明
警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
注意	取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
禁止	してはいけないことを示しています。
必ず守る	必ずしなければばならないことを示しています。

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

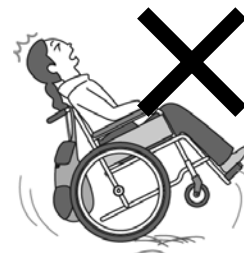
●**勝手に改造・分解しないでください。**

強度や耐久性が低下して危険です。また、事故になる恐れがありますので絶対に改造・分解しないでください。
故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。

●**車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に足を乗せないでください。**

絶対にステップ板の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

●**車いすを火気に近付けないでください。**

シート部が燃えたり、熱くなりプラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど、危険です。

●**ポケットには１kg 以上の重いものを入れないでください。**

過度の荷物はバランスを崩し危険です。また、押手に荷物を吊り下げますとバランスを崩し危険です。絶対に避けてください。

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

●座シート以外の部分に腰掛けないでください。

●介助者は、絶対に車いすに乗って介助しないでください。

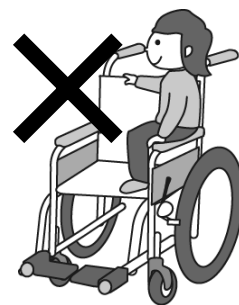
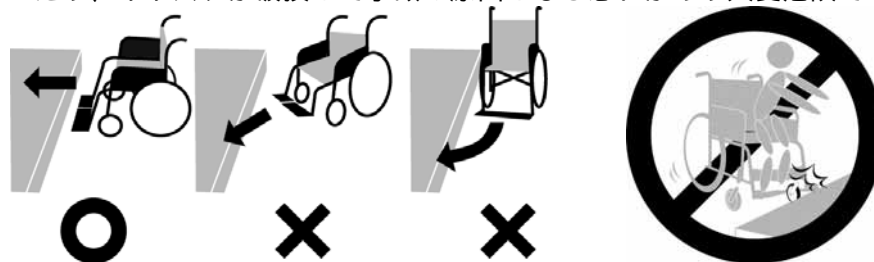
●複数の人数で乗らないでください。
この車いすは一人用です。二人以上で乗ると破損・事故の原因になります。

●急な坂道(勾配４度以上)では使用しないでください。

●押手に寄りかかったり、歩行補助として使用しないでください。

●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。
事故の原因となります。調整が必要な場合はご購入の販売店にご相談ください。

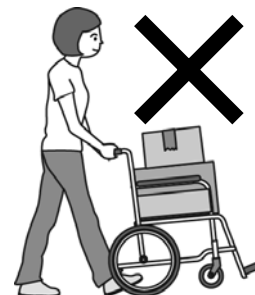
●大きな段差を無理に乗り越えようとしないでください。

●段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用して乗り越えてください。
決して勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。
また、フレーム及びキャスタ車輪等の損傷を受けます。

●発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタが破損して事故の原因となる恐れがあり大変危険です。

●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。
車いすが不安定になり危険です。

●車いすに座ったまま強い前傾姿勢をとらないでください。
車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾うと、車いすごと転倒し大変危険です。

●車いす以外の目的に使用しないでください。

物品運搬・踏み台などに使用しないでください。
車いすの上では立ち上がらないでください。

警告

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

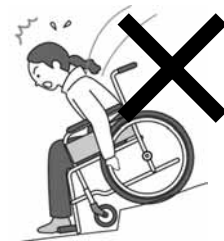
●車いすを持ち上げる場合、駐車ブレーキをかけ固定されているパイプをしっかり支えてください。

※肘掛けを持たないでください。
※脚部をもたないでくさい。
※背シートを持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、脚部や肘掛け等が車いすから外れるなど、大変危険です。
※利用者が乗ったまま持ち上げる場合は、シートベルトをしっかりと締め、３人以上でフレーム前下部とティッピングレバーを持ってしっかりと支えてください。利用者の身体の一部を持たないでください。

フレーム前下部
ティッピングレバー

●道路通行の際は、必ず右側通行または、歩道を通行してください。

●身体が前のめりにならないよう充分ご注意ください。

段差や凸凹などのある路面等を走行するときは、特にご注意ください。

●踏み切りの横断やエレベータの乗り降りの際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。

斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。

●坂道の上り下りや段差のある場所では、必ず介助者に支えてもらいましょう。

坂道を上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。
坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

[上り坂]

[下り坂]

●傾斜地･坂道での走行は特にご注意ください。

・傾斜地や坂道では、車いすが予想外の方向に進む、スピードが出やすいなど大変危険です。
・車いすからずり落ちる、前へ倒れるなど、非常に不安定になり危険です。

●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●走行中は、足を必ずステップ板の上に乗せてください。
足を地面に付けたままで走行したり、ステップ板から外して走行すると、ステップ板と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。
（足でこいで操作する場合は例外です。）

●車いすの機能と操作をよく理解し、慣れた状態で介助を行ってください。

●部品等が破損したり損傷がある場合は、すぐに部品を交換してください。

●次のような場所では走行を避けてください。
・交通量の多い道路　・砂利道　・凹凸のある道
・ぬかるみ　・雪道　・凍結路　・防止柵のない側溝や路肩付近など
・崖　・川土手　・海岸防波堤上　・その他危険な場所

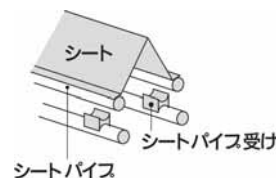
●次のような場合は走行を避けてください。
・夜間　・雨天　・濃霧　・強風　・その他危険が予想される場合
夜間は側溝や障害物などが発見しにくくなり危険です。
雨天は路面が滑りやすくなり危険です。

●次のような場所では厳重な注意が必要です。
介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど注意しながらご使用ください。
・狭い道　・踏み切り　・横断歩道　・駅のホーム　・エレベーター
・車いす対応の動く歩道　・車いす対応の福祉車両
・その他危険が予想される場所

●介助用として使用する場合、シートベルトを必ず装着してください。
段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出されることがあり危険です。また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

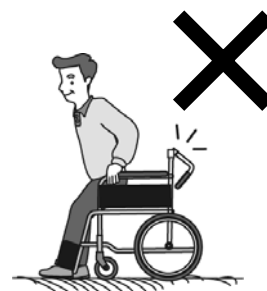
●シートパイプがシート受けに収まっている事を確認してご使用ください。
万が一、シート受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。

●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。

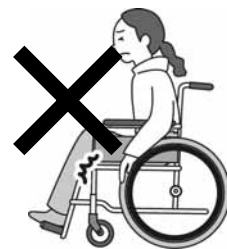
●跳ね上げ部、背折れ部、ブレーキなどの操作レバーに荷物などを掛けないでください。

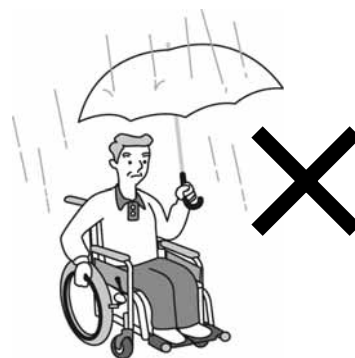
●小さな子供に使用させたり遊ばせたりしないでください。

●背もたれを背折れしたまま使用しないでください。
後方へ転倒したり、背折れ金具で怪我をするなど大変危険です。

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●タイヤをもって車輪を操作しないでください。

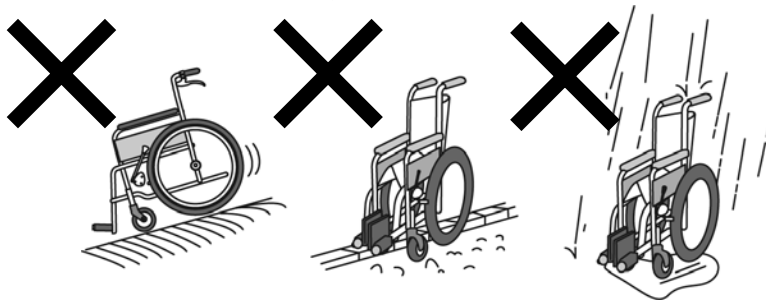
駐車ブレーキで指をはさむなど、大変危険です。

●走行する際には片手で操作しないでください。

傘をさしながら、また片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- 車道に近いところ
- 路面に段差や凸凹のあるところ
- 海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ほこりの多い場所
- 非常口、消火器、消火栓の前
- 直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- 子供がいたずらをする恐れのある場所
- 人通りのあるところ
- 湿気の多いところ
- 雨、風のあたる場所
- 坂道
- 暑い日や寒い日の戸外

事故やサビ・破損の原因になります。

●後輪の空気圧が少なかったり故障した状態で使用しないでください。

ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるなど、危険です。

●後輪の空気圧を適正に保ってください。

適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。(目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。)
空気圧が高すぎるとチューブが破裂する危険があります。

●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛けを跳ね上げないでください。

取扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

必ず守る

●ご使用前には各部を点検してください。

車いすは“動くもの”ですから、長時間のご使用等により劣化が生じます。
ご使用前の点検を励行し、異常が見つかったら直ちにご使用を中止してください。

●安定した姿勢で座ってください。

座面深くに座ってください。左右にかたよらずに座ってください。
また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座っていることを確認してください。

●回転している車輪に指を挟み込まないように注意してください。

●車いすにバリなどがないかを確認してください。

衝突等により金属･樹脂部にバリなどが発生することがあります。ケガの原因となりますので、充分ご注意ください。

●認知症の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。

車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●駐車ブレーキは必ず手で操作してください。

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

●介助者は、利用者が車いすに安全に座れていることを確認してから操作してください。

利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスタ及び地面、建物、通行者に触れたりはさまったりしないようご注意ください。

●靴を履かずに足をステップ板に載せてご使用いただく場合は充分ご注意ください。

壁や柱で足をケガしたり、足がステップ板から落ちて骨折するなど、大変危険です。

●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。

●最大体重を守ってご使用ください。

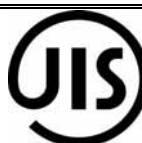
車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。

●皮膚の弱い方のご利用の際には、充分ご注意ください。

この取扱説明書は、イラストや写真が一部実車と異なる場合があります。

SG マーク制度について

※弊社では、認定を受けた全ての商品にＳＧマークを貼付しています。

ＳＧマーク制度は、ＳＧマーク付製品の欠陥により発生した人身事故に対する賠償制度です。事故原因や被害の程度に応じて、製品安全協会が賠償措置を実施いたします。
（ただし、消費者側の一方的な過失、もしくは誤使用に基づくような場合は除きます。）

JIS マーク制度について

※弊社では、認定を受けた全ての商品に JIS マークを貼付しています。

JIS マーク制度とは、国に登録された認証機関が、製造工場の品質管理体制と該当の JIS に適合することを試験で確認した製品に対し JIS マークを表示できる制度です。厳しい規格のもと第三者機関である認証機関で検査や試験が繰り返され安全性を確認しています。

ご確認ください

飛行機にご搭乗される場合

お客様の車いすをご旅行先へ持っていかれる場合は、事前に利用予定航空会社又は旅行代理店にご相談ください。

事前確認なしに空港へ行きますと、航空会社の確認業務に時間がかかり、ご希望の便に間に合わなかったり、せっかくの旅行を取りやめなくてはならなくなったりします。
特に**六輪車、リクライニング車などガススプリング（ガスダンパー）を使用している車いす**は飛行機への搭載可否の判断に日数を要する場合があります。また、電動車いすや電動ユニット装着車いす及び特殊車いすについてもご希望の便によっては貨物室のスペース確保が出来ない場合があります。はやめの手続きでスムーズなご旅行をお楽しみください。

１.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

・取扱説明書	1 式
・保証書はがき	1 枚
・13mm スパナ	1個
・座奥行き調整カラー（ゴールド）	2 個
・背クッション	1個
・座クッション	1個
・オリジナルポーチ	1 個

２.安全ラベル

・取扱い上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
・ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

右側板（内側）

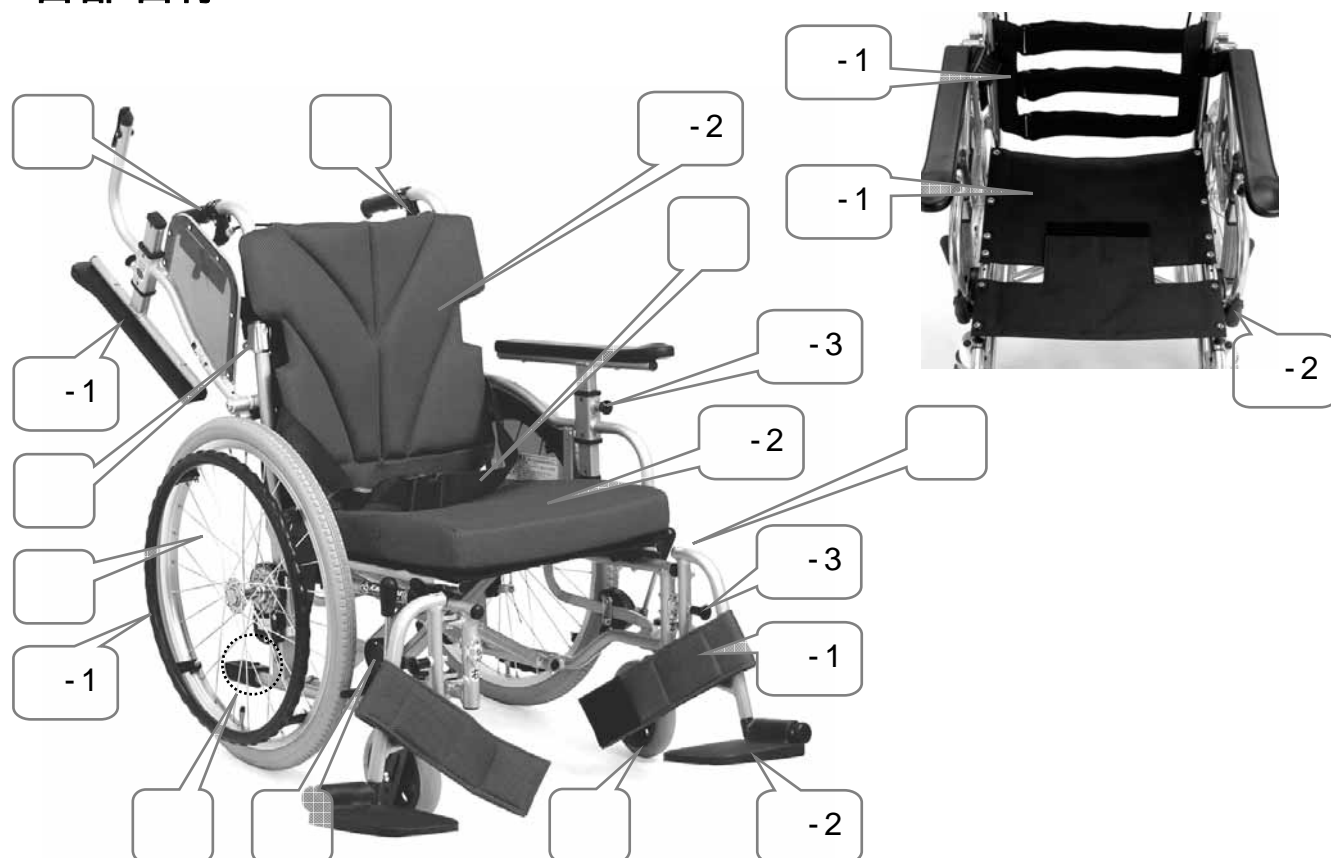
⚠ 注 意 ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

左側板（内側）

⚠ 警 告 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

3.各部名称

① 押手(手押しハンドルグリップ)	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
② 介助ブレーキレバー	介助者がブレーキを制動するときに握る部分です。
③ 肘掛け（アームサポート）	移乗しやすくなるよう跳ね上げできます（跳ね上げ式）。
③-1 肘当てパッド	ご利用者が肘を乗せる場所です。
③-2 跳ね上げレバー	肘掛けを跳ね上げる際に使います。
③-3 高さ調整スライドピン	肘を上下させる際に使います。
④ 脚部（フットレッグサポート）	足を支持する装置です。
④-1 足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
④-2 ステップ板(フットサポート)	足をのせる板です。
④-3 スイングアウトスライドピン	脚部をスイングアウトする際、取り外す際に使います。
⑤ 前輪（キャスタ）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑥ 駐車ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します。
⑦ 後輪	駆動輪です。（介助用の場合は主車輪です。）
⑦-1 ハンドリム	手をかけて後輪を回します（自走用のみ）。
⑧ 背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑨ 背シート	背部が寄りかかる場所です。
⑨-1 背ベースシート	背の張り調整をし、背クッションを取り付けるシートです。
⑨-2 背クッション	背ベースシートに取り付けるクッションです。着脱可能で、ポケット付です。
⑩ 座シート	座る場所です。
⑩-1 座ベースシート	座の張り調整をし、座クッションを取り付ける場所です。
⑩-2 座クッション	座ベースシートに取り付けるクッションで、着脱可能です。
⑪ ティッピングレバー	段差を乗り越える際、ここを踏んで前輪を浮かせてください。
⑫ シートベルト	体がずり落ちないよう腰を安定させるベルトです。

4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

＜装着品の確認＞

・背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
・背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
・背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
・肘掛けは、しっかりと固定されていますか？
・クロスは、しっかりと受けに収まっていますか？
・脚部は、しっかりと取付けられていますか？
・足ベルトは、しっかりと取付けられていますか？
・ステップ板は、しっかりと取付けられていますか？

＜後輪の確認＞

・タイヤに空気が充分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
・バルブが緩んでいませんか？
・タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
・タイヤの溝が充分残っていますか？変形していませんか？

＜ブレーキの確認＞

・駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
・ブレーキをかけた状態で後輪が回転しませんか？

＜肘掛け＞

・スムーズに（上下）作動できますか？
・しっかりと固定できますか？
・キズや亀裂等はありませんか？

＜脚部＞

・スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
・しっかりと固定できますか？
・ステップ板がパタパタしていませんか？
・キズや亀裂等はありませんか？

＜全体的に＞

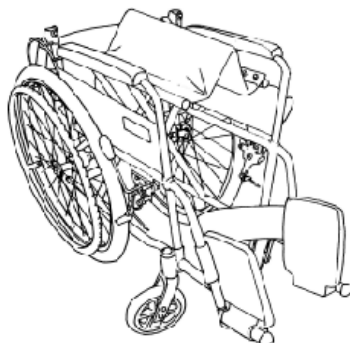
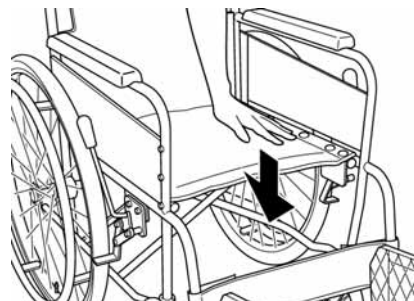
・ガタつきはありませんか？
・まっすぐに走りますか？
・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
・背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
・ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？

＜介助者へ＞

・長期間の使用や使用頻度によっては、キャスタ車輪、脚部、肘掛け等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。
　異常がある場合は、使用を中止してください。
・次のような場所では必ず介助者が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
　　・急な坂道
　　・凹凸や段差のある場所
　　・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
　　・その他危険が考えられる場所
・車いすに乗って介助しないでください。
・利用者の身体の一部及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
・利用者の身体の一部及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
・重い荷物を車いすに載せたり、押手に提げたりしないでください。

5.車いすの拡げ方･たたみ方

車いすの拡げ方

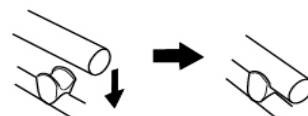
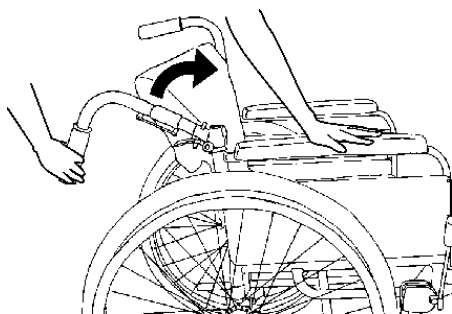
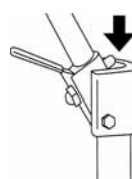
①左右に拡げます。

駐車ブレーキをかけます。車いすの前方または後方に立ち、左右の肘掛けを持って両側に軽く拡げます。

片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、シートパイプ部分を上から手で押し下げます。

⚠注意

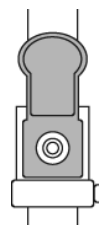
●シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

●背ベースシートが張りすぎていないことを確認し、シートパイプをシート受けに確実に入れてください。
張りすぎるとフレームが変形して、事故の原因となります。

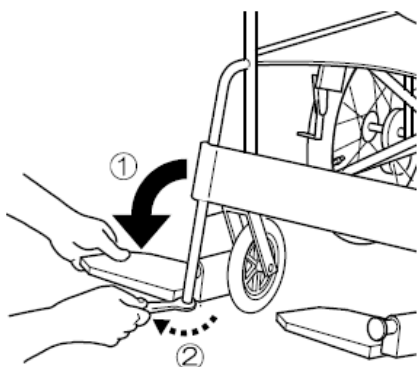
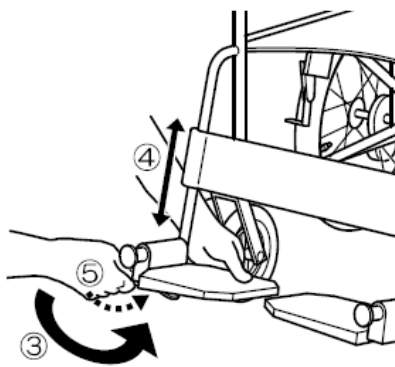
②背もたれを起こします。

スライドピンが完全にロックされている事を確認してください。

車いすの押手部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
※このとき、駐車ブレーキを使用するか、片側の手で車いすが動かないように支えていてください。

⚠注意

●矢印の箇所に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

●背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。
回転したまま使用するとレバーが破損する恐れがあります。

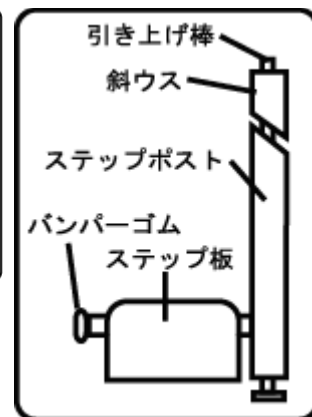
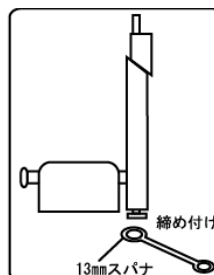
③ステップ板を取り付け、調整します。

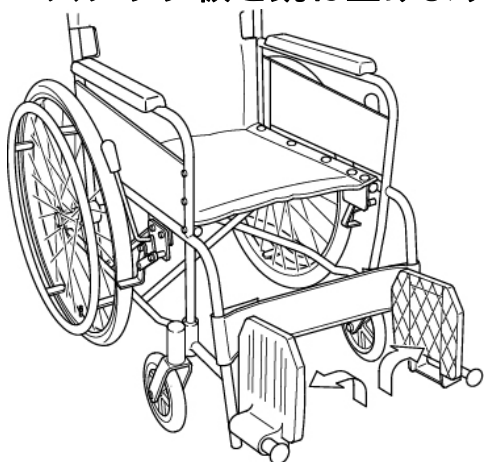
出荷時は、ステップ板が外側に回転させて折りたたんであります。

①ステップ板を外側に倒します。
②付属品のスパナを使ってステップポスト先端ボルトを少し緩めます。
反時計回り(②矢印方向)で緩みます。

③内側へ回転させます。
④ステップ板の高さを調節します。
⑤しっかりと締め付けます。
（７～８N･m）

ステップ板が固くて動かない場合は、下図のように車いすを倒し、ポストに垂直に木槌等で先端の六角ボルト頭を叩いてください。
（パイプ内部のポストのかみ込みを解除します。）

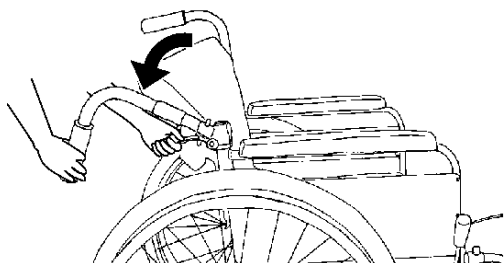
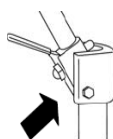
⚠警告

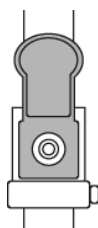
●**ステップポストの高さは地面より 5cm 以上でご使用ください。**
低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板があたり、転倒する恐れがあります。

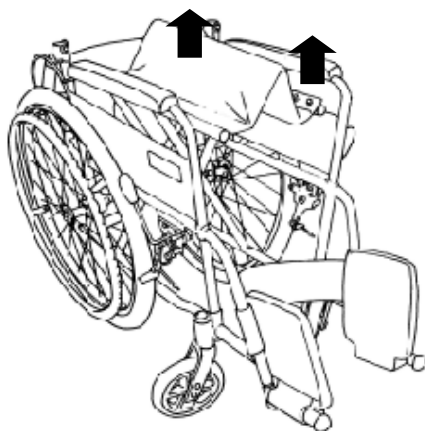
●**ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。**
締めることにより斜ウスがズレてステップセットが固定されます。
締め付けが弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。

●**下図①のようにステップセットを固定してください。**

※車いすを折りたたむ時は下図②のようにステップ板を跳ね上げてください。
※下図③,⑤のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため(④,⑥)、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。また、前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります。

①ステップ板を跳ね上げます。

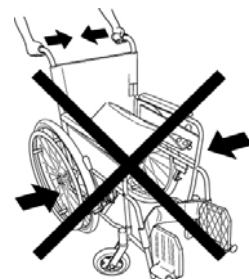
駐車ブレーキをかけ、ステップ板を閉じるように上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※ステップ板を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ません。折りたたみの際はステップ板が上方へ跳ね上げられていることを確認ください。

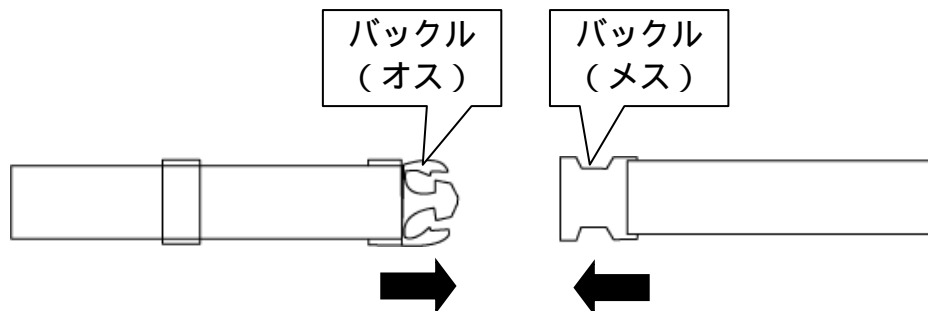
②背もたれを折りたたみます。

車いすの押手を握り、少し前に押して、一方の手でレバーを引きながら押手を手前に引くようにして折りたたんで下さい。
反対側も同様に行ってください。
※このとき、駐車ブレーキを使用するか、片側の手で車いすが動かないように支えていてください。

⚠注 意

矢印の箇所に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

背折れレバーが図の向きになっていることを確認して操作してください。
回転したまま使用するとレバーが破損する恐れがあります。

③シートを折りたたみます。

座ベースシートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

⚠注 意

シートパイプの横や下に手や指を置かないでください。
挟まってケガをする恐れがあります。

折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。
フレームの破損の原因となります。

6.シートベルトの取扱い方法

車いすに深く腰掛け、カチッと音がするまで押し込んで留めてください。

⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ずシートベルトを使用してください。

段差などで不意に衝撃などを受けると身体が投げ出される場合があり危険です。
また、シートベルトを外したまま移動するとベルトが車輪にからまるなど危険です。

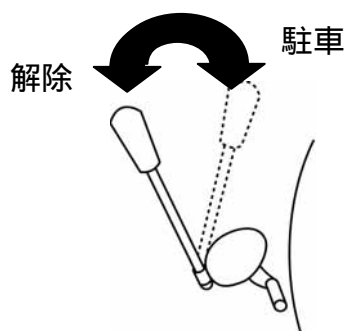
★転倒防止に充分配慮してください。

乗車・降車・移乗の際には不安定になりやすいため、転倒しやすくなります。
転倒しないよう、

・転倒防止金具(オプション) をご利用いただく
・車いすの後方を人が支える
・車いすの後方をベッドや壁に押し付ける
・手すりを利用する

などの方法で充分配慮してください。

7.ブレーキの取扱い方法

★駐車ブレーキ

ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを前方に倒すと解除されます。

※車いすへの乗り降りや、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

⚠注 意

●車いすに乗り降りする際、一時停止する際は、必ず駐車ブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●後輪の空気圧にご注意ください。

空気入タイヤ仕様の車いすをご使用の場合、空気圧が低すぎるとブレーキの効きが悪くなります。
目安として、タイヤを手で押してやや硬い程度（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

●傾斜地や平坦でないところでは駐車しないでください。

傾斜地や滑りやすい床面では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

駐車

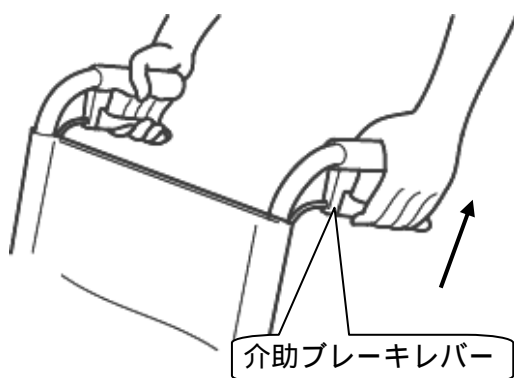
●駐車ブレーキのレバーは作動方向以外に力を加えないでください。

また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●駐車ブレーキは必ず手で操作してください。

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

★介助ブレーキ（バンド式）

走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。

ブレーキレバーを握ると制動ブレーキがかかり、離すと解除します。

⚠警 告

●ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎるときは、すぐに販売店にご相談ください。

●ブレーキワイヤーは１年に１度、定期的に交換してください。

●ブレーキレバーは介助者の方が必ず両方同時に掛けてください。

●坂道を下るときは後ろ向きで走行してください。

坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

8.肘掛けの取扱い方法

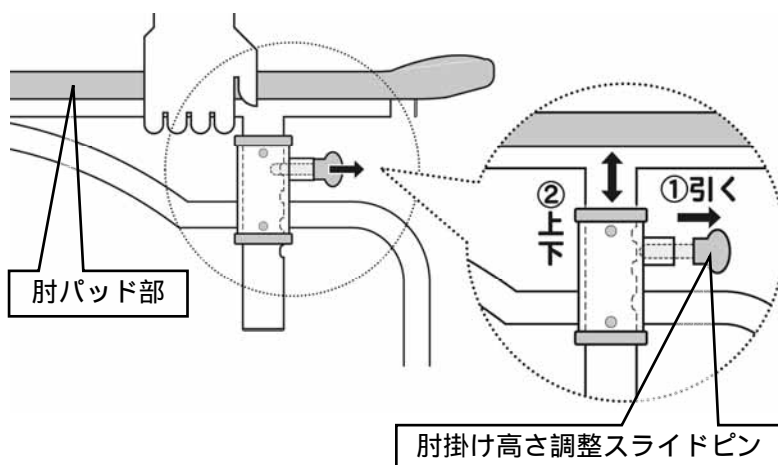
★高さを調節するとき

肘掛けの高さを 25～31cm、4 段階で調節できます。

①駐車ブレーキをかけます。

②肘掛け高さ調節スライドピンを前方に引きます。

③肘掛け高さ調節スライドピンを引いたまま、肘パッド部を持って上下させます。

④お好みの高さで肘掛け高さ調節スライドピンから手を離します。
※調整ノブがしっかりと収まっていることを確認してください。

肘掛け高さは 25、27、29、31cm の４段階で調節できます。
（後輪が 20 インチ、座面高さが前座高 36cm(SSL/超々低床)の場合は、27～31cm の３段階となります。）

⚠警告

●調節は必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
調節操作中、車体が動く場合があり、危険です。

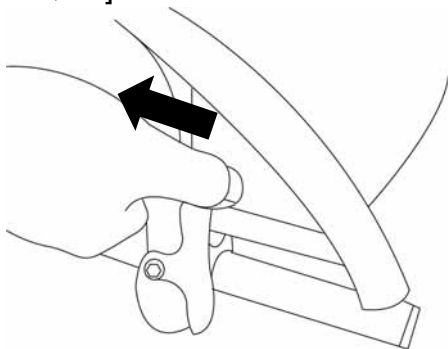
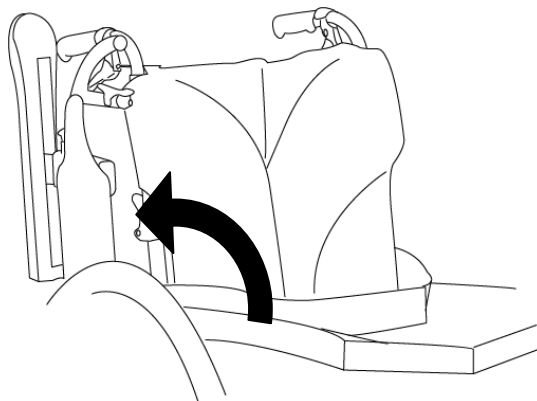
●調節後は肘掛けがしっかりと固定されていることをご確認ください。
調節ピンが調節穴に確実に収まっていないと、体重をかけたとき急に肘掛けが下がるなどの危険があります。

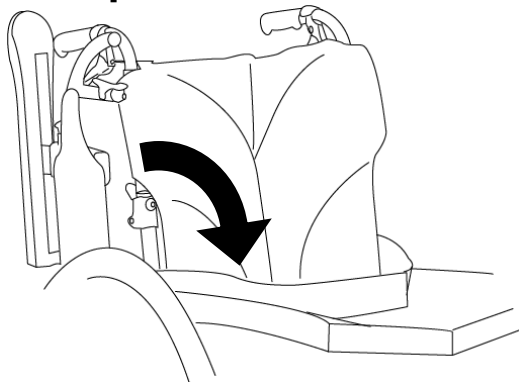
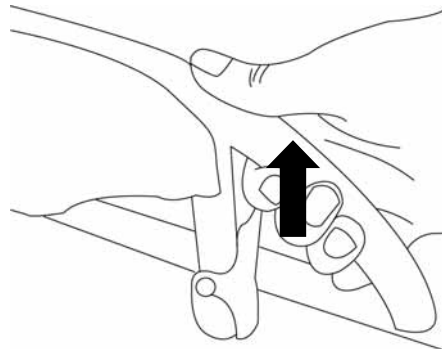
⚠注意

●肘掛けを下げるとき、手や指、衣服等を挟まないように注意してください。

★跳ね上げるとき

肘掛けを跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。

[跳ね上げる]

①レバーを上図のようにつまみ、ロックを解除します。

②肘掛けを矢印の方向に跳ね上げます。

[元に戻す]

①肘掛けを矢印の方向に降ろし、一番下まで押し下げます。

②一度上向きに引張り、確実にロックされていることを確認してください。

⚠注 意

●肘掛けを跳ね上げたり、戻す際には、フレームとの隙間や車輪との隙間、ブレーキレバーとの隙間、跳ね上げ金具等で手や衣服を挟まないようにご注意ください。
- ・フレームとの隙間　・介助ブレーキレバーとの隙間
- ・車輪との隙間　・駐車ブレーキとの隙間　・跳ね上げ金具

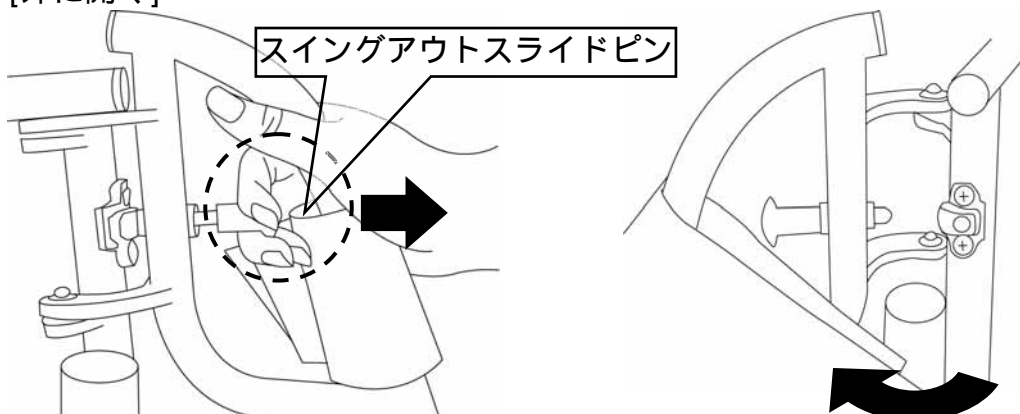
●肘掛けを跳ね上げたままの状態で使用しないでください。
転倒など、思わぬ事故の原因となります。

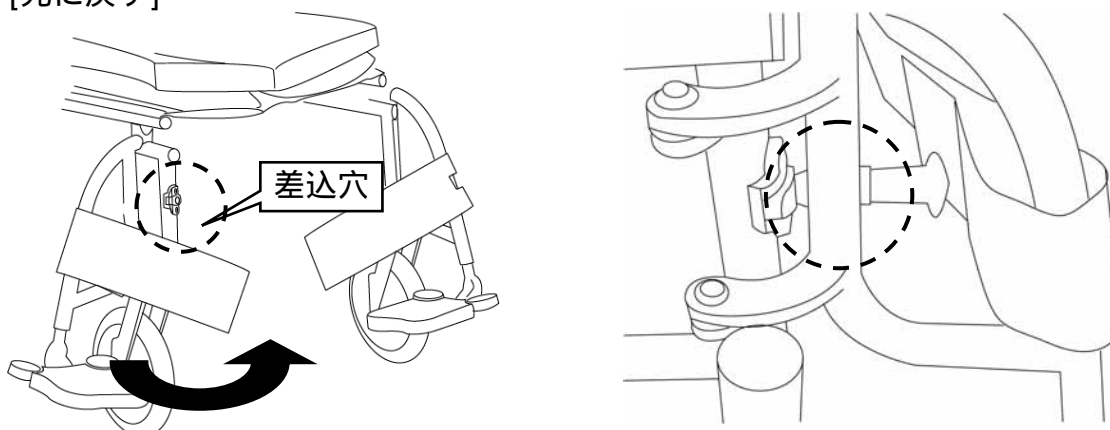
●背もたれを折りたたんだ状態で、跳ね上げ操作をしないでください。
背折れ金具を破損する恐れがあります。

●肘掛けに腕を載せたまま、肘掛けを跳ね上げないでください。

9.脚部の取扱い方法

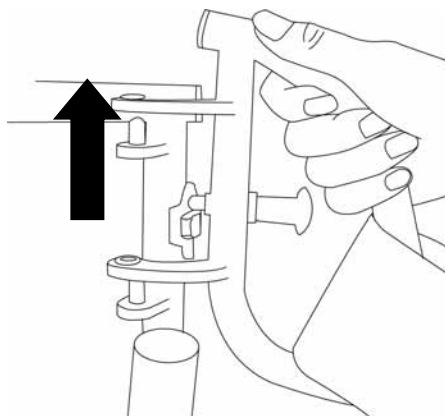
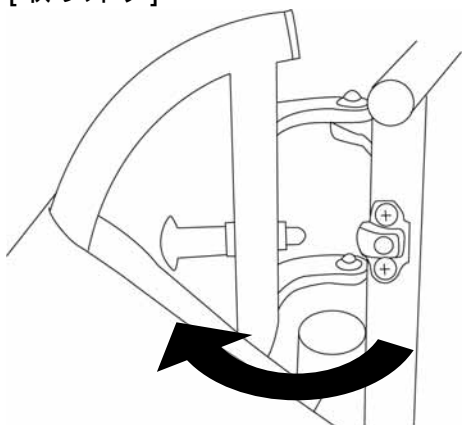
★スイングアウトするとき

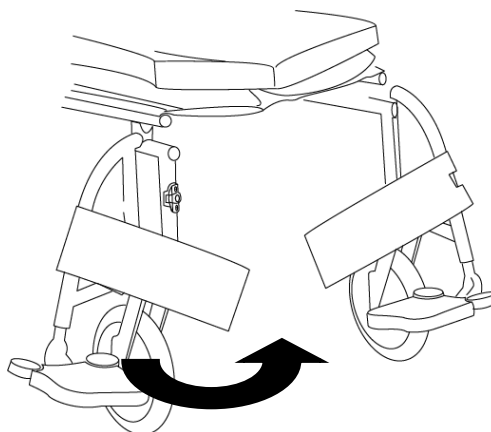
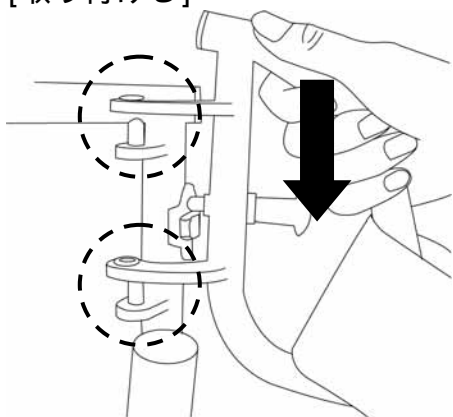
[外に開く]

①駐車ブレーキをかけます。
②足ベルト中央部の面ファスナーを外します。
③スイングアウトスライドピンを引きながら、脚部を外側に廻します。

[元に戻す]

①駐車ブレーキをかけます。
②脚部を内側に廻します。
③このとき、スイングアウトスライドピンが固定されてることを確認してください。
④足ベルト中央部の面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

⚠注 意
●脚部の操作をする際には、脚部や金具等で手や衣服をはさまないようにご注意ください。
●脚部の操作をする際には必ず駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。 急に車いすが動き事故の原因になりかねません。
●車いすに乗り降りの際は、決してステップ板の上に乗らないでください。 車いすごと転倒し大変危険です。
●車いすの乗り降りや移乗など車いすが不安定になりやすいときには、必ず２名以上の介助者が付き添ってください。

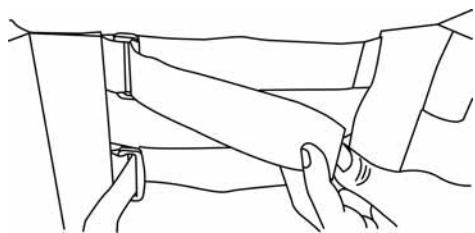
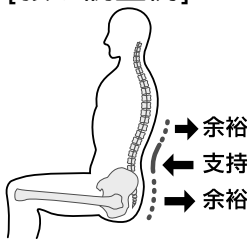
★脱着するとき

[取り外す]

①駐車ブレーキをかけます。
②足ベルト中央部の面ファスナーを外します。
③スイングアウトスライドピンを引きながら脚部を外側に廻します。
④外側に廻した状態で脚部を上に引き抜きます。

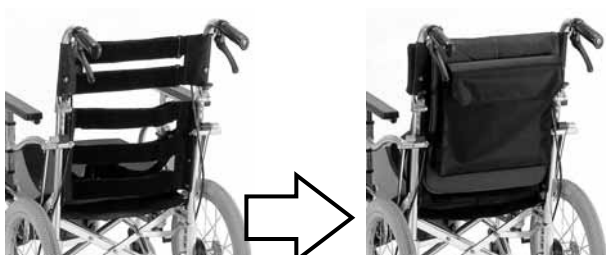
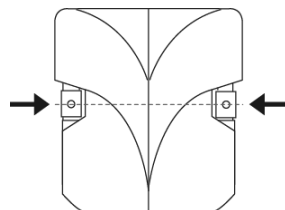
[取り付ける]

①駐車ブレーキをかけます。
②外側に廻した状態で脚部を差し込みます。
③脚部を内側に廻します。
④このとき、スイングアウトスライドピンが固定されてることを確認してください。
⑤足ベルト中央部の面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。

10.背シートの調整方法

この車いすの背ベースシートは利用者の方の体型に合わせて調整できます。一番楽な姿勢が保持できるように調整してください。

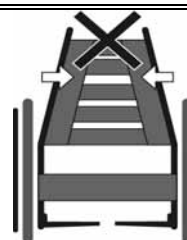
①背クッションを取り外します。

⚠注 意

利用者が車いすに乗っている状態では、全ての面ファスナーを一度に外さないでください。
転倒する恐れがあり、大変危険です。

②調整ベルトの面ファスナーを外し、適当な長さに合わせます。
（部位によって張り具合を調整してください。）

③背クッションを取り付けます。
背クッションは背折れ金具がクッションのへこみの中央にくるように取付けてください。

⚠注 意

●ベースシートを調整する際、強く張りすぎないようご注意ください。
※座ベースシートを強く張りすぎるとシートパイプ受けにシートパイプが収まらなくなる場合があります。
※背ベースシートを強く張りすぎると背パイプが中央に寄ってしまい、背もたれ幅が狭くなってしまいます。また、フレームの変形の原因にもなります。

●背クッションはポケットが付いている方が後ろ側です。
表裏･前後の向きにご注意ください。

●座クッションは薄い部分がお尻側です。
逆につけると前ズレが促進されてしまい、身体に悪影響を及ぼす恐れがあります。

11.シート奥行の調節方法

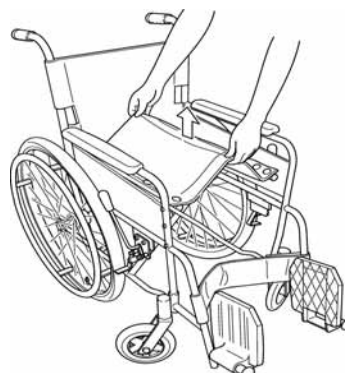
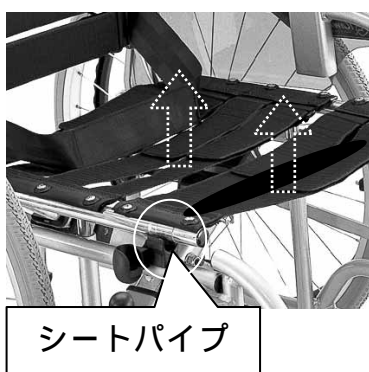
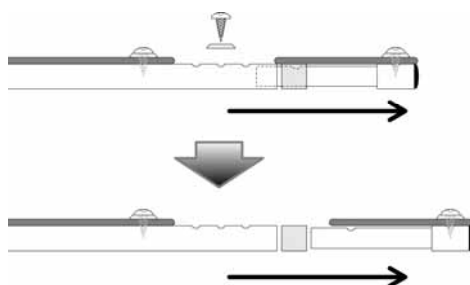
この車いすの座面の奥行きを 38～42 ㎝の 3 段階で調節できます。

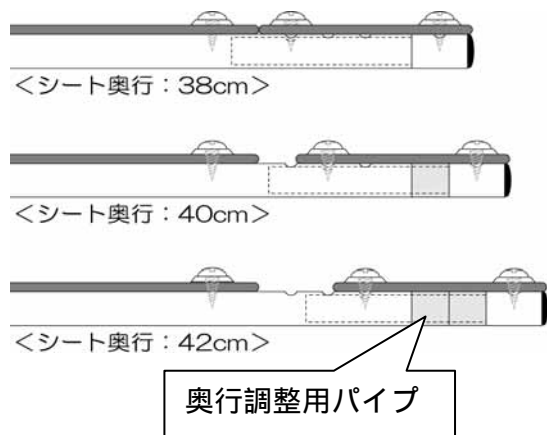
①座クッションを外します。

②座ベースシートの前部分を外します。

②-１ 座ベース前シートを取り付けているねじの前方から２本目を緩めて外します。

（左右１箇所ずつ、合計２箇所）

②-２ 座ベース前シートの前方と後方の中央部を同時に引き上げ、クロス金具のシートパイプをシートパイプ受けからこぶし一個分浮かせます。

②-３ シートパイプの先端部を抜き取ります。

③奥行調整用パイプの入れ込み個数で、シート奥行を調整します。

シート奥行	奥行調整用パイプ（片側）
38cm	0本
40cm	1本
42cm	2本

④シートパイプの先端を戻して固定します。
　④-１　抜き取ったシートパイプの先端を、シートパイプ本体に戻します。
　④-２　シートパイプの先端部とシートパイプ本体の穴を合わせ、ねじを締めて固定します。

～締付トルクの目安　4.2N･m（42Kgf･ｃm）～

⑤座クッションを元に戻します。

⚠注 意

●ご使用の際には、必ずシートパイプが固定されていることを確認してください。
　万が一、緩んでいると、思わぬ事故の原因となります。
●奥行調整用パイプは、紛失しないように保管してください。
●シート奥行は、左右同じ長さにしてください。左右の奥行が違うと、フレームが歪み、破損やケガの原因になります。

12.その他各部の調整

この車いすには、ご利用者の体型や症状に合わせて以下の調整機能があります。
調整については専門業者に作業をお願いしてください。

●座面高さ（前座高･後座高）
　座面高さを３段階(前座高 36･38･40cm)で調整できます。
●自走･介助組み替え
　自走用(後輪 20in)･介助用(後輪 16in)で組み替えできます。

⚠注 意

●調整については必ず専門業者に作業をお願いしてください。
●調整の際は、ネジがしっかり締まっているか、ご確認ください。

13.お手入れの方法

★金属部分（フレーム、車輪等）

フレームなどの金属部は、乾いた布でよく汚れを落として、自動車用のワックスをかけ、乾いた布で拭き取ってください。スポークの通常のお手入れは、水を用いずに汚れを落とす程度で充分です。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。市販されている防水加工用のスプレーなどを用いての防水加工をお勧めします。防水加工を行う場合は、ご使用になる防水加工用商品の説明書をよくお読みください。

＜汚れがひどいとき＞

●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後、水で濡らした布で洗剤を拭き取ってください。

●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。

●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

⚠ 注 意

●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。
故障・変質・変色の原因となります。

●中性洗剤以外を使用しないでください。
中性洗剤以外を使用した場合変質・変色・傷みの原因となります。

●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。
変質・変色・傷みの原因となります。

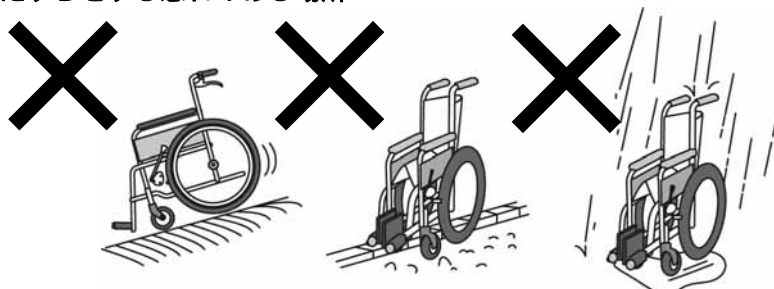
●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
傷みの原因となります。

14.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

・車道に近いところ
・路面に段差や凸凹のあるところ
・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
・非常口、消火器、消火栓の前
・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
・子供がいたずらをする恐れのある場所
・人通りのあるところ
・湿気の多いところ
・雨、風のあたる場所
・直射日光の当たる場所（車内も含む）
・坂道
・暑い日や寒い日の戸外
・ほこりの多い場所

15.車いすの保守・点検

1ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は充分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていきます。1ヶ月に１回は空気を入れてください。
適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎると破裂の原因となります。

[目安]タイヤを手で押してやや硬い程度(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。

【適正空気圧(参考)】
18～24in 一般：400kPa（減圧弁圧）
22in 軽量：700kPa（減圧弁圧）
16in 以下一般：300kPa（減圧弁圧）

[注意] 弊社の車いすに使用しているバルブは「英式バルブ」ですので、空気圧は正確には測定できません。英式バルブは空気が一方的に入るだけで、漏出させることができない構造になっているため、ポンプに内装型の圧力ゲージでも、 単体の圧力ゲージでも英式バルブの正確な空気圧測定はできません。

★タイヤの溝は充分認識できますか？

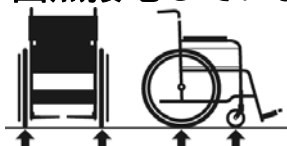
タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★駐車ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？

前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

湿気の影響を受けたり長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★きちんと折りたためますか？

折りたたみに異常がある場合、ネジの緩みや可動部分の油切れが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★ハンドリムはしっかり固定されていますか？

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★介助ブレーキはしっかり効きますか？

介助ブレーキがスムーズに作動すること、しっかりと効くことをご確認ください。異常がある場合は、お買い上げの販売店までご連絡ください。

★ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキヤイヤーは切れていませんか？ブレーキが効かなかったり、事故の原因になります。安全のため、1 年に 1 度はワイヤーを交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。
  変質・変色・傷み・割れの原因となります。

⚠ 注 意

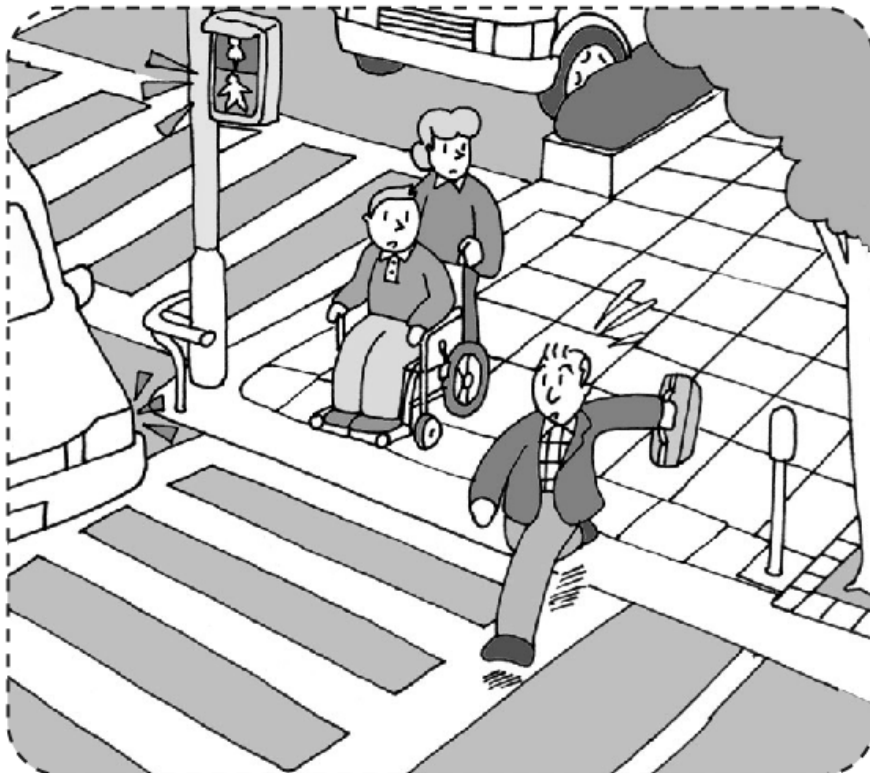
●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。

●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止してください。

16.車いすの主な乗り方

⚠警 告

●タイヤの空気が充分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や充分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。

●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある
　歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。
　「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、走行を心掛けましょう。

⚠注 意

●車いすは乗り物ですから、定期点検が必要です。
　長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★転倒防止に充分配慮してください。
（転倒防止金具(オプション)をご利用いただく、車いすの後方を支えるなどの方法があります。）

★移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで､腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向けます。

ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
※「いち、にの、さん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

★外出

車いすの安全な使い方は､“ ゆっくり ”“ 確実に ” と “ シートベルト着用 ” が基本です。

[坂道]

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

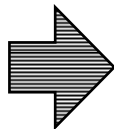
＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
また、シートベルトを必ずご利用ください。

[段差のある場所]

＜上がるとき＞
ティッピングレバーを踏んで前輪を上げて進み、続いて後輪を押し上げます。
＜下るとき＞
後ろ向きでまず後輪をおろし、ティッピングレバーを踏んで前輪を上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。
※階段では車いす全体を持ち上げてください。

[溝越え]

※予め溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。

①「キャスタ上げ」の要領でティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャスタを上げます。
※この時､必ず声をかけてから行ないます。

②キャスタを上げたまま前に進み､溝を越えた向こう側にキャスタをゆっくり下ろします。

③次に後輪を持ち上げて前に進み､溝を完全に越えたところでゆっくりと後輪を下ろします。

17.仕　様

＜各部寸法＞・・・・・・・・・・・・・・・記載の寸法や重量は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

品名・名称		標準仕様・規格		
		LO（低床）	SL（超低床）	SSL（超々低床）
座　　幅	(mm)	380・400・420		
前座高	(mm)	400	380	360
後座高	(mm)	370	350	330
レッグ長さ	(mm)	300～		
シート奥行	(mm)	380・400・420		
背もたれ高	(mm)	440		
肘掛け高	(mm)	250・270・290・310 （後ろ車輪が 20 インチ、座面高さが前座高 360mm(SSL/超々低床)の場合は、270・290・310 の３段階となります。）		
全高	(mm)	865	845	825
(折りたたみ時)	(mm)	690	670	650

品名・名称		KZ20	KZ16
全幅	(mm)	590・610・630	530・550・570
(折りたたみ時)	(mm)	340	290
全長	(mm)	990	
(折りたたみ時)	(mm)	710	660
重量	(kg)	16.0	14.7
使用者最大体重	(kg)	100	

＜各部仕様＞・・・

品名・名称	標準仕様・規格	
	KZ20	KZ16
後輪（駆動輪及び主輪）	20in エアーバンド式車輪 ハンドリム：波型・黒	16in エアー車輪 バンド式車輪
タイヤ	20x1 3/8 エアータイヤ	16x1.50 エアータイヤ
チューブ	20x1 3/8 英式バルブ	16x1.50　英式バルブ
ハンドリム	20 in 波型　黒色	―
前輪	6in ニューソフトキャスタ　3 穴ベアリング式	
キャスタ車輪	6in ニューソフトキャスタ車輪	
ヨーク	6in3 穴ベアリング式ヨーク	
背シート	背ベースシート:適合調整シート（黒） 背クッション：着脱式（2 色選択）	
座シート	座ベースシート：奥行き調整シート（黒） 座クッション：アンカークッション（前-後：5- 3cm 厚） （2 色選択）　単層　標準式	
肘掛け	跳ね上げ＆高さ調整式(４段階/3 段階調整)	
肘当て	エッグパッド	
ハンドグリップ	1.反射板付き　黒色	
脚部	スイングアウト式（脱着可）	
ステップセット	o.黒色	
ステップ板	o.黒色	
バンパーゴム	LK-1　黒色	
足ベルト	中央分離式	
駐車ブレーキ	H.エッグストップ（黒）	
にぎり	I 型　黒色	
SG マーク	あり[手動車いす(使用者最大体重 100kg)]	
JIS マーク	あり	

＊この車いすの後輪のハブ軸は 1/2 -20UNF のねじを使用しております。
　また、シート・バックサポート部、フットサポート部、背折れ金具部、介助ブレーキのバンドカバー部には十字穴付きタッピンネジを使用しております。
＊この車いすは JIS T 9201:2006 に定める静的安定性試験において、10.1.2 a) の方法を用いて合格しております。

18.材料・材質一覧表

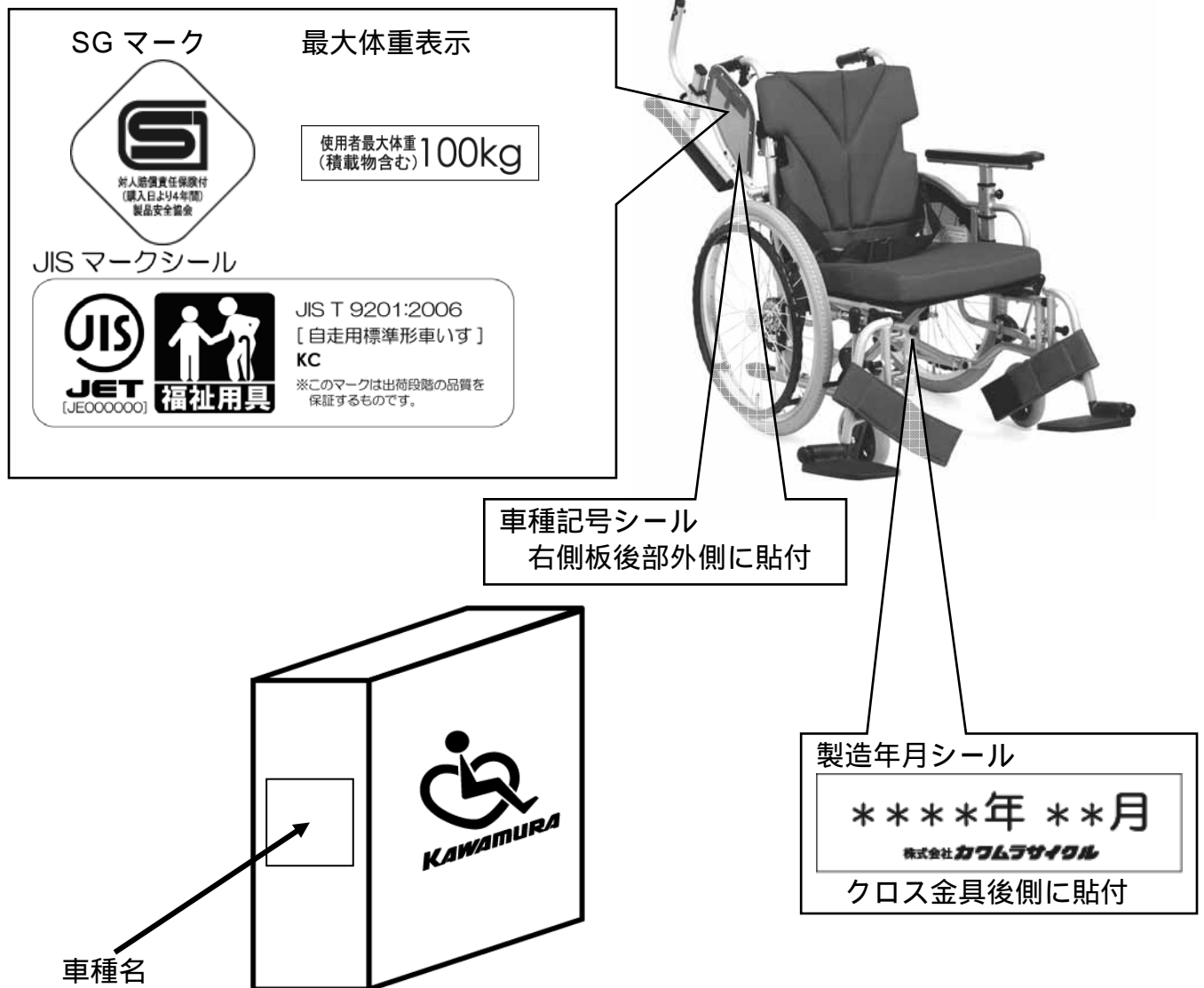
【　　　　】：表面処理

フレーム	フレーム	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装 溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
	クロス	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装 溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
部品	後輪	タイヤ	合成ゴム、ナイロン,ブチルゴム、スチールワイヤ
		チューブ	ブチルゴム
		リム	アルミ 6000 系【アルマイト】
		スポーク	スチール【ユニクロメッキ】
		ハブ	スチール【クロムメッキ】
		ナット	スチール【亜鉛メッキ】
		ハンドリム（自走式）	ポリプロピレン,グラスファイバー
	前輪	タイヤ	天然ゴム,スチレン･ブタジエンゴム
		ホイル	ポリプロピレン
		ヨーク	アルミ 6000 系
		キャスタ軸	スチール【亜鉛メッキ】
		ベアリングオイル	グリース
	背シート 座シート 足ベルト	表地	エコブラック：ポリ塩化ビニル
		芯	ポリ塩化ビニル
		クッション	ウレタンフォーム
		ベルクロ	オス（ナイロン）　メス（ナイロン）
		糸	ナイロン
	肘当て	クッション部	ポリウレタン
		中芯	スチール【亜鉛メッキ】
		取付ネジ	スチール【亜鉛メッキ】
	側板	側板	ポリカーボネイト
		リベット	アルミ
	跳ね上げ金具	レバー	ナイロン,グラスファイバー
		金具本体	ナイロン,グラスファイバー
	背折れ金具	レバー	ナイロン
		金具本体	アルミ 6000 系
	ハンドグリップ	グリップ	ポリ塩化ビニル
		反射板	ポリスチレン
		接着剤	クロロプレン
	ステップセット	ステップ板	ポリプロピレン,グラスファイバー
		ステップポスト	スチール【クロムメッキ】
		板バネ	スチール【亜鉛メッキ】
		バンパーゴム	天然ゴム
		ウス	スチール【亜鉛メッキ】
		引き上げ棒	スチール【亜鉛メッキ】
	駐車ブレーキ	レバー	ステンレス
		グリップ	天然ゴム
		カバー	ABS 樹脂
		本体部	ナイロン,グラスファイバー
部品	バンド式介助ブレーキ	カバー	スチール【電着塗装】
		シュー	合成ゴム,繊維質充填材
		ブレーキレバー	ポリプロピレン
		ブレーキレバー取付バンド	スチール【電着塗装】
		アウターワイヤ	ポリ塩化ビニル
		インナーワイヤ	スチール【亜鉛メッキ】
梱包材	梱包材	外箱	ダンボール
		内袋	ポリエチレン
		テープ	ポリプロピレン

19.製造記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造年月を記録しておいてください。

車　　　種	
製　造　月	年　　　　月

＜シール貼付位置＞※右側側板に貼付

２0.保証

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。
返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に弊社へご返送いただきご登録ください。
※ご登録がない場合は保証対象外となりますのでご注意ください。

★保証期間

お買い上げ日より 1 年間です。（消耗部品は含みません。）

★保証期間後

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★消耗部品

・前輪(車輪のみ)
・ベアリング
・タイヤ
・チューブ
・虫ゴム
・背ベースシート
・背クッション
・座ベースシート
・座クッション
・肘当てパッド
・足ベルト
・板バネ
・後輪
・バンド式介助ブレーキ本体
・ワイヤー
・ステップセット

★保証の適用除外となる場合

（a）ご使用による消耗および取扱不注意による破損
　　例）タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
（b）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d）保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
（e）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i）取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
（j）ご購入後 1 ヶ月以内に返送用登録はがきをご返送いただいていない場合
（k）日本国外でご使用の場合

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

★一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

地球の環境保護のため、廃棄するときはそのまま放置しないで各自治体の取り決めにしたがってください。

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田2-20-10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原1-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

※本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上のために一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2012.05 版